

令和元年度 埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育 研究紀要

研究主題

「自然豊かな中での体験活動を通し、勤労の尊さと共に、
自主性を高め、感動を味わえる生徒を育成する」



春日部市立豊春中学校

埼玉県春日部市南中曾根107番地2

TEL 048-752-2717

FAX 048-763-9664

1 はじめに

春日部市は、関東平野のほぼ中央、埼玉県の一部に位置している。江戸時代には、日光街道など主要道路の整備とともに粕壁宿として栄え、発展を遂げてきた。現在は、東西南北に鉄道や国道が走り、首都圏における要衝として賑わいを見せている。都心への通勤圏でもあるにもかかわらず、水田や屋敷林が広がる水と緑の豊かな都市であり、美しい景観と恵まれた自然環境を有している。

本校は、在籍生徒数395名、14学級（特別支援学級2学級を含む）の中規模校（令和元年度）である。素直な生徒が多く、落ち着いた雰囲気教育活動が行われている。その中で本校では、「自然豊かな中での体験活動を通し、勤労の尊さと共に、自主性を高め、感動を味わえる生徒を育成する」という研究課題を掲げ、校外教育を推進してきた。

2 研究の概要

学校教育目標「～夢と笑顔と歌声あふれる学校～ 心の豊かな生徒 進んで学ぶ生徒」のもと、本校での校外教育の実践として、様々な活動に取り組んでいる。中でも山村民泊体験学習は、人とのふれあいや食のありがたさについて身をもって体験できる有意義な活動である。本研究を深めるには、この行事における教育的効果をさらに高めることが重要であると考えた。生徒と民泊先の方々との出会いをより深いものにするのをねらいとし、その手立てとして、感謝の気持ちを表すための「色紙作成」と「合唱披露」を2泊3日の行程の中で実践した。また、事後指導としての新聞づくりやお礼状の作成、山村民泊に関するアンケート調査、2年生の東京校外学習に関わるアンケート調査を通して、効果の検証を行った。

期待される成果

- ・より深い人との関わりを通し、感謝の気持ちや思いやりの気持ちを行動に表そうとする態度が身につく。
- ・農業体験を通し、食のありがたさを実感する心が育つ。
- ・山村民泊以降も、人とのふれあいを大切にできる心が育つ。

3 令和元年度の2年生の実践活動

- 6・7月・・・合唱練習、民泊先への挨拶状作成、新潟県阿賀町に関する事前学習
- 8月・・・学年集会、合唱練習
- 9月・・・色紙の事前準備、山村民泊体験学習（2泊3日）、事後アンケート実施
- 10月・・・まとめの新聞・お礼状作成、送付
- 11月・・・東京校外学習に向けた事前学習（行動計画、見所調査）
- 1月・・・東京校外学習
- 3月・・・研究成果の確認およびまとめ、研究紀要の作成

(1) 合唱練習（6月～9月）

音程をとることや声をそろえることは当然として、合唱を届ける相手がいることや当日の合唱披露場面を想像させながら練習に取り組ませた。合唱することや山村民泊体験学習に対する意欲を高めさせ、合唱は「気持ちを相手に伝えることができるものであること」を伝えながら、指導を行った。



(2) 農業体験（当日）

環境も一緒に生活をする人も、普段とはまったく異なる中で、民泊先の方々から、生活の工夫やその理由を教えていただきながら、農業体験を行った。多くの生徒が大変さを感じながらも、自分で苦労して収穫したものが食卓にならんでいるのを見ることで、食のありがたさを実感することができた。また、その土地ならではの生活の知恵を知るとともに、地元の方々のあたたかさに触れることができた。



(3) 色紙作成（当日）

山村民泊の2日目に職員が撮影した写真を現地でプリントアウトし、3日目までに写真付きの色紙を生徒が作成し民泊先の方にわたす取組を行った。生徒は、体験したばかりのことを思い返しながら、実感を伴った感謝の気持ちを言葉に表すことができた。また、生徒にとっては、色紙の制作を通して3日間の貴重な体験を振り返ることに繋がり、さらに民泊先の方とのふれあいをより深いものにすることができた。



(4) 閉校式での合唱披露（当日）

3日間の活動やふれあいを振り返り、お別れの合唱を行った。合唱祭へ向けて練習をしている学年合唱曲を披露すると共に、「ふるさと」を民泊先の方々と共に歌うことで、感謝の気持ちを伝え、この3日間の経験や思いを共有することができた。



(5) 山村民泊事後学習

苦労したこともあったが、多くの生徒がそれを前向きにとらえられていた。

【生徒の感想】

- ・野菜を作ることの大変さや食べ物のありがたみを感じることができた。農作業をすることで虫嫌いを克服できた。
- ・埼玉にはない自然のすばらしさを感じることができた。
- ・前よりも自信をもって取り組むことができるようになった。自分の生き方を見直すことができた。
- ・阿賀町の皆さんとの出会いを通して、人の情を感じられ、人にやさしく接することや感謝の気持ちの大切さを学ぶことができました。
- ・知識だけでなく、実際に体験することの難しさを感じることができた。
- ・お手伝いすることの大切さや、人と会った時のあいさつや礼儀、マナー、意思表示の大切さを学んだ。
- ・自分のやるべきことを、言われる前にできるようになった。やった後のやりがいを感じられた。

【まとめ新聞】ほとんどの生徒が民泊先の方とのふれあいを記事にしていた。

【アンケート結果】(単位：%)

質問：活動の内容は満足であったか。

	はい	いいえ
令和元年度	98	2
平成30年度	95	5
平成29年度	96	4
平成28年度	95	5

例年よりも「満足」と答える生徒の割合が上昇した。



(6) 東京校外学習における生徒の活動とその感想

1月に行った東京校外学習では、生徒たちは東京都内において1日かけて班別行動を行った。事前学習では自分たちで見学地や行動計画を決め、それらの見所を調べた。そして、当日、実際に見学地を訪れることで、新たな発見をすることができた生徒がいた。また、人とのふれあいについての感想をもち、感動を味わえた生徒も多かった。

- ・「都会は冷たい人」というイメージが強かったのですが、みなさんととても優しく、嬉しかったです。いろんな人と関わるのは今の私たちにとって、大切なことだと感じました。
- ・勇気をもって決断することで、次に進めた場面がありました。知らない人に道を聞いたときです。その人はとても優しく、わかりやすく道を教えてくださいましたので安心しました。他にも、たくさんの人の優しさに触れることができました。
- ・自分たちが写真を撮ろうとしたときに、親切に声をかけていただき、優しさをとても強く感じることができました。
- ・外国の方が多く、「Please take a picture.」と言われてびっくりしましたが、写真を撮ってあげるととても喜んでもらって、自分も嬉しくなりました。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 合唱により、自分たち自身が感動を味わい、人にも感動を与えることができるということを多くの生徒が実感できた。
- ② 現地で山村民泊当日中にお礼の色紙を作成し、民泊先の方に直接おわたしすることで、生徒の満足度は上昇した。
- ③ 山村民泊体験学習での感動や人とのふれあう経験を東京校外学習につなげられたため、多くの行事で、生徒は人のあたたかさを感じることができた。

(2) 課題

- ① 協働する力を伸ばすために、自分の体験や感想、学んだことを発表することで、生活に生かし、発信する力を向上させる必要がある。
- ② 発信する力をつけさせるために、他教科や他の行事と関連させながら、横断的かつ継続した取組をしていく必要がある。